

福野地域 会議録

件名	福野地域提言実現検討組織 人づくりグループ 第3回会議		
日時	令和元年9月17日(火) 19時30分～21時	場 所	福野庁舎2階 201会議室
出席者	人づくりグループ メンバー：4名 、地方創生推進課：2名		
内容	・ 具体的な取組内容の検討		
概要	◆前回のフィードバック（事務局より） ◆資料「わたしたちの南砺市」の説明（橋爪氏より） ●これは、小学3年生の我が子が社会科授業で用いている教材。自分たちの住んでいる地域の事を知るような内容になっており、せっかく授業で取り上げているのであれば、このグループの活動や検討事項の一つになるのではないかと思います、取り寄せてもらった。また、この教材を編集された教員の皆さんから、本教材作成の意図やねらいを伺う機会を設けたいとも考えており、近いうちに、この会議でお話していただくよう依頼済みである。この教材を、親子で地域を知る材料に活用出来たら、と考えている。 ◆資料「わたしたちの南砺市」について (○…浦井リーダー発言、●…メンバー発言、→…事務局発言) ○この「わたしたちの南砺市」のほかにも、市で作成した教材はあるか？他にもあれば、全部見せて欲しい。 →また確認し、次回会議に提示したい。 ●この教材のような地域学習は、小学3、4年生で取り組んでいる。 ○確かに、教科書にも「地域のことを知ろう」という項目があり、富山県の事を調べるページがあったり、テストでも富山県の地理的な問題があったりと、地元の事を学ぶ時間がある程度とってあるのだろう。 ○教材を見ると内容が多岐に渡っているので、この内容全てを学習しているのかは、いささか疑問である。 ●その点も教員の皆さんから伺いたいと思っている。 →広い南砺市について、たくさんの事が掲載されている。新しい教材を作って、それで何かやってくれと学校に働きかけるよりも、今あるものを活用していけば、学校の負担も少なく、受け入れられやすいのではないと思う。 ●この教材の作成に、どのような人が関わっているのかも伺いたい。 ○このような教材を基に、親子で会話するのも良いだろう。 ○現在、子どもからこの教材についての話を聞くことはない。これは学校の教材だから、どこまでこのグループの思いを盛り込むことが出来るかは分からないが、この教材が、どんな視点で作られているのか確認したい。 ●「親の思う■■■」と「子どもの思う■■■」とか、このような視点の違いが一つの切り口になれば良いと思う。 ○歴史については、そんなに書かれていないようである。 ●広く、浅く、だろうか？ ●以前、商工会福野支部で「福野検定」を作った。建物・歴史、特産・産業、などの分野別に、合計100問ぐらいだろうか。 ●七転び八起き塾では「なんと検定」を作った。 ●「福野検定」は作って満足して、以後の利用は不明である。問題を作っている過程で、自分よりも年上の方でも知らない事がけっこうあった。マニアックな内容だから、子ども向けには活用は難しいかもしれない。 ○例えば、親子で解いてみるとか、問題に合わせてウォークラリーをすとか。商工会で作った検定は福野だけ？他の地域にもあるのでは？七転び八起き塾の「なんと検定」は市全域が対象だろう。 ●小学2年生は「夜高について調べよう」という課題もある。頑張っ取り組んだら「夜高博士」になれるような仕組みづくり。 ○福野に特化してガイドブックや検定を作っても、上手く運用されなければ意味がない。どのように使うかが重要。 ●例えば、学校のカリキュラムにどのように組み込むか。 ●親子で「福野の▲▲について調べよう」とするもの良いだろうか。 ●しかし、地元を学ぶような取組が学校の授業で行われていても、それで人口流出に歯止めがかかるというわけではない。		

- この教材では、深く踏み込んだ点には触れられていないようだ。例えば、買い物の部分については、買い物先は調べているが、「南砺市で買いましょう」とまでは書かれていない。
- こちらの立場で言えば、一步踏み込むような視点でやって欲しいところである。
→地元で買うことのメリットを謳わないと、行動には結びつかないのでは？
- ◆具体的な取組内容の検討について
(○…浦井リーダー発言、●…メンバー発言、→…事務局発言)
- さて、どんな方向性で行くか？どういう人をつくるか？である。「知る」と「つくる」では、どちらになるだろうか。また、どういう地域の魅力づくりにするか。このことについて、このグループで検討していきたい。
- 「人づくり」がこのグループのテーマの一つだから、「地域を知る」になるのではない。但し、「知る」だけではなくて、子どもなりの課題をもって「知る」になれば良いと思う。
- まちの魅力を感じてもらうにはどうしたら良いか？例えば、まちなかを歩く機会があれば魅力も分かるだろうか？
- 猿ヶ辻公園とまち中を流れる芝井川沿いをつなげるルートが、福野の情緒を感じさせるような雰囲気があり、地域の魅力を感じる材料となるのでは。
- 今はバラバラに点在しているものが、つながって線になり、それが面となってエリアとして機能していかないとダメだろう。エリア全体が機能するイメージ。
- 福野家守舎のリノベーションのように、点が出来てきて、それが魅力の発端となれば良いと思う。
- 便利さとは別の、何か魅力を見出さないとダメだろう。
- それが、「人」なのか、「交流」なのか。
- 市内店舗で何か一つの物品を買おうとしても、店舗により価格のバラツキが大きく、且つ高い。また、品物も揃わないので、地元で買いたくても買えない現実。
- 売れない →在庫を抱えられない →取寄せ（対応に時間がかかる） →売れない、の悪循環になっている。
- 買うという行為は全国どこでも可能だから、この視点は外すべきだろう。
- 買い物は大手には勝てない。
- 福野の魅力は、やはりコンパクトシティであること。小中学校に近い、日常の買い物先が近い、という点だと考えるが。
- 本当にそれがあらゆる世代の魅力となるのか？まちづくり検討会議での議論も「人口流出を止めたい」が発端。例えば、元々福野のアパート等に住んでいる家族が家を建てるとなればコンパクトな点が魅力となって、福野に家を建てようということになるかもしれないが、福野から転出した人が戻ってきたいという理由にはなかなかならない。コンパクトな点を謳っても人口流出は止まらないと思う。
- 例えば、今、福野のアパートに住んでいる家族にとっては魅力として映るかもしれないが、結婚しようかどうかという段階の人たちには魅力としては映らないということか？
- 例えば、これから結婚しようかと考えている人たちは、福野にこだわらなくてもどこにでも住むことが出来る。このような人たちに魅力を訴えて、その訴えた魅力が地域の魅力とつながるのであれば良いと考える。
- 福野の魅力を上手く子どもたちに植え付けることが出来たら良い、ということを検討会議でも話してきた。
- 子どもと、単にまち歩きをただけでは、そのまちの魅力は子どもには伝わらない。
- だから、子ども、それも高校生にまちづくりの経験をさせてあげたいと思って、福野高校にアプローチした。
- 前回の会議の流れから、高校生よりも、小中学生の方が取り組みやすいという話だったが、どのように結びつけられるだろうか？
- 小学校では、このようなテキストを上手く利用して、具体的にまちづくりを学べば良いのではない。高校生は、進学や就職で転出する機会の目元だから、提言では、敢えてそこをターゲットとした。高校生でやろうとしたことを中学生でやるのは無理だろうか？
- 子どもたちにまちづくりの経験をさせることが、遠回りだけど正解の一つだと思う。根気強く続けることが、結局は近道なのではないか。まちづくりの方の話と一緒に取り組めば、一人でも福野を好きになってくれるのではないだろうか。
- 自分の地元の地域づくり協議会では、目の前の課題ではなく、20年30年を見込んで、そのための種まきのために活動している部会がある。

- 自分たちのような、地域にいる大人が、同じ地域の子どもたちに教えたり、逆に学びに来てくれたりするような取組が継続していけるような仕組みが絶対に必要であり、根幹だと思う。
- 結果はすぐに見えないだろうが。
- それは、大人が学校に出向くのか、それとも、子どもがこちらの方に来てくれるのか、どちらだろう？学校と共に作っていく、というイメージではない。長く続けていくことが「種まき」だとすれば、どちらの方法が良いのだろうか？
- 地域の事柄をいろいろ話せるような語り部のような人をどんどん増やしていくという意見では、学校に出向くのも、こちらの方に来てもらうのも、両方必要だろう。
- 地域の事を語れる人材バンクみたいなリストを持っておいて、それを小中高校に見せておけば、必要な時に学校からの派遣要請に対応したり、こちらに来てもらったり、というような事例もある。地域に特化しなくても、学校からの要請があれば出向くし、声が掛からなくても、他の自分たちの活動をやり続けていくイメージなら、可能なのかも。例えば、様々な会をリスト化して、フィールドワークを実施するとか。
- そんなリストがあれば、学校でもニーズはあると思う。
- いろいろな会を取りまとめる、様々なグループの連合体。
- 学習以外の事も話してもらおうと、意外と心に響くかもしれない。どうやってグループを把握、情報収集するか？
- 登録制ではないだろうから、まとまったものはなかなかないだろう。
- 収集するだけで一仕事になるか。
- 文科系団体なら文化協会、農業系なら農協に尋ねるのが良いのでは？
- 基本を押さえれば、バランス良く網羅出来るのではないかな。徐々に深くなれば良いだろう。まずは、リストを作る。次に、自分たちの活動の実施。同時進行で、学校にアプローチしていく。ところで、このグループでの予算はあるのか？
- このグループでの検討が、具体的な取組に発展すれば、予算対応も可能。
- 各グループがどんな活動をしているのか、情報発信するような内容のかわら版として、配布等すれば、それがきっかけとなって、その会のことをもっと知りたい、という声が挙がるかもしれない。
- それは取組の一つになると思う。
- 新聞をきっかけに、人材募集とか新規事業実施とかにつながりそう。
- 継続して発行する仕組みを作りたい。
- 城端時報は月1回発行している。運営資金は、広告や寄付金だったかと。
- 新聞の周囲の模様には福野縞を使いたい。
- 今日の会議をまとめていくと、一つは、地域のことを語れる人材バンクのようなリストを作る方向で今後進めていくということ。まず、商業、工業、農業、そのほか、どんなジャンルの団体に入ってもらえばいいか、アイデア出しをする。そして、それを整理して、リスト化する。リストが出来れば、各団体へのアプローチ、及び協議会（コンソーシアム）の立上げを具体的に検討する。もう一つは、登録した団体の情報発信する内容の新聞発行についての、持続可能な仕組みづくり。
- このグループの方向性が見えてきたようだ。各団体に向けてアプローチする際には、この活動の背景、目的を明確にしないと賛同してもらえないから、そのことについて十分に検討を重ねる必要がある。
- 福野ジモト大学（仮）に近づいてきたか。
- リスト化でどんなジャンルの団体に入ってもらうかのアイデア、それと、持続可能な新聞発行の仕組みづくりのアイデア、協議会設立のノウハウ（手順）が分かれば調べてくること、を宿題とする。次回会議の前日までに各自、事務局に報告するということでよいか？
- （全員）異議なし
- ◆次回会議
 日時…令和元年10月15日（火）午後7時30分から
 場所…福野庁舎2階 201会議室
 内容…具体的な取組内容の検討
 宿題…リスト化でどんなジャンルの団体に入ってもらうかのアイデア出し、持続可能な新聞発行の仕組みづくりのアイデア出し、（分かれば）協議会設立のノウハウ（手順）

◎市で製作した地域を学ぶ教材を確認し、取寄せて、提示すること

福野地域提言実現検討会議 人づくりグループ第3回 Rn. 9.17(火)



地域を知るツール(例)

- ・「わたしたちの南砺市」
小3・4の社会科教材
- ・な人と検定(七転び八起き塾)
- ・福野検定(市商工会)

↓
いろいろとある教材etcも
上手く活用できないか?

・小学校で 地域を学ぶ学習 している

But. ↓
人口流出が止まらない

↳ 福野に住み続けることに
活かせないか?

・地産地消

・地元で販売したくても

(物が高い
物が無い
店が無い...)

・猿ヶ辻公園 + 芝井川治い
まら中を流れる

↓
何か出来ないか?

(Ex.) 店舗 + 店舗 → 新しい
公園 + 店舗 → 魅力

・地域を知る

福野の魅力は?
もの? 人?

点 → 線 → 面



住むことの幸せ ← 親子でどう感じる?

コンパクトシティ = 今住んでいる人には
魅力(アットホーム)

コンパクトシティ キ戻ってきたい人には
魅力にならない

種をまき続けることの重要性



継続的に
仕組みが
必要



(Ex.) 地域を語る人材バンク

- ・出前講座(小・中・高)のアプローチ
- ・様々なグループとの連合体
(夜高祭の会、里芋の会 etc...
文化系、農業系 etc...)
- ・リスト化

持
続
し
た
い

- ・グループ紹介の新聞?
- ・福野の紹介

地域の手柄をいろいろ話せるような
語り部みたいな人をどんどん増やす。



- ・その会のことをもっと知りたい!
- ・人材募集
- ・新規事業実施
- 可能性は広がる

次回
10/15(火)
19:30~

(宿) 1. (新聞) どんなジャンルの団体に入ってもらおうか

→ 整理 → リスト →

- ・団体へのアプローチ
- ・協議会 立ち上げ
コンソーシアム

2. 新聞で発信する仕組みづくり

3. 協議会設定のノウハウ

福野の会 2019年 3月 20日